

10
月号

第485号

いっしん

令和7年(2025年)

遠いとして
心をとおく
思うなよ
神の心に
へだてなければ

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

立教166年／小倉教会布教140年／甘木親教会布教121年／加治木教会布教74年



青年の広場

開催される

鹿児島地方教会連合会主催

朝夕はわずかに秋らしさを感じるようになってきた九月十四日(日)「知寛特攻平和会館」において、鹿児島地方教会連合会主催「青年の広場」が開催されました。

今年は、終戦八十年のお年柄でありますので、戦争と平和について、学習と研修をさせていただきました。午前中は、知寛特攻平和会館の展示物や種々の映像を見学し、十一時から語り部による講話を視聴覚室において、写真などのスライドを見ながら聴かせていただきました。

特攻兵の遺書の紹介や、特攻兵の生い立ち、家族の思い、家族のおかれた厳しい境遇などが語られ、戦争がもたらす悲しみや厳しい現実、そして平和の尊さを身に染みて感じさせていただくことができました。

(次ページにつづく)

「青年の広場」(連合会主催)… P1～2
『私の頂く安武松太郎師』… P4～6

秋季霊祭仕えられる… P3
お知らせ… P7 教会行事… P8

鹿児島地方教会連合会主催

青年の広場

九月十四日（日）

この日の午後は、隣接する施設「南九州市知覧文化会館」の研修室をお借りし、そこで昼食をいただき、出席者全員による二分から三分間のスピーチが行われました。



知覧特攻平和会館を見学しての感想や、戦争や平和に対する意見や深い思いが感慨深く語られました。

ちょうど現在、ロシアとウクライナの間で、またイスラエルとパレスチナの間でも激しい戦闘が行われており、参加者一同切実な思いで、尊い研修ができました。

さらに、この日、始良市では中学校の運動会が開催され、若い人たちの参加ができませんでしたが、高齢の方が「知覧特攻平和会館ならば、参加したいのですが」との申し出があり、参加されることになりました。

すると、午後からの研修のスピーチの時間になり、戦争の経験談や兄弟の出征を見送り戦場で亡くなられたことなどを発表され、若い人たちにとっては、想像も及ばない貴重なお話を聴くことができ、戦争に対する思いがもっと深く胸に刻まれました。

県内各教会より二十名、加治木教会より四名の参加者がありました。



秋季霊祭

仕えられる

朝夕は少し涼しさを感じるようになってきた九月二十三日の「秋分の日」加治木教会では、秋季霊祭が仕えられました。

秋季霊祭は、加治木教会の布教の御用の上に、御祈念・ご尽力を下さり、生涯を布教の御用に捧げられた先生方をはじめ、加治木教会にご神縁のある信奉者の皆さんとそのご先祖様の霊様方に対し、お礼お慰びお称え申し上げるお祭りです。



ご祭典では、まずご神前で霊祭詞が奏上され、霊様方が幽冥（かくりよ）で今日まで天地の親神様にお世話になられて、霊としてのお働きができて来られたことを御礼申し上げますと共に、これからも霊様方が神様のおかげを蒙られ幸せでご安心されますようにという意味合いが奏上されました。



ご霊前に転座ののち、加治木教会の霊舎にお祀りされてあるご霊神様方（教徒）のお名前を読み上げ、さらに信徒はじめ縁（ゆかり）あるご霊神様方のお名前を読み上げ、霊神祭詞の奏上だけでも数百柱を数え、奏上に

二十分ほどもかかります。

ご霊神様方の読み上げの儀式を「お呼び出し」とも言われ、幽冥（かくりよ）のご霊神様方が、ご祭典にお出ましになられ、家族や子孫・ご縁のある人達の参拝があつていると、ご安心されお喜びになられるそうです。

肉眼ではわからないこととして、春秋の霊祭の参拝をおろそかにする人がありますが、けっして良いことではありません。

霊様にお喜びいただきご安心いただいて、ご霊徳を積むということをおろそかにして、後悔することのない貴い生き方をさせていただきたいものです。



『私のいただく安武松太郎師』

(矢野政美著 昭和五十六年十二月発行)



安武松太郎師

六、三十三歳の時大患を救わる

俗に、三十三歳は女の大厄とせられていたが、(金光様は「厄年にあらず役年じゃ、大きな世のお役に立たせていただかねばならない」と、み教えになったと承っておりますが)母はそれ以前にも子瘡産、また流産をし、恩師の御取次によって救われました。

この年(大正四年)の七月、母は産後、腎臓炎にかかり重態に陥りました。

主治医は家族の者を呼んで「遠い親戚の人には、早く知らせたほうが良いでしょう」として「とうていダメでしょう」と、さじを投げたので

あります。

また、世間の人は「クラさんは亡くなられたそう」と、夜には弔問に途中まで来て間違いとわかり、帰っていった人もあったとのことであります。

母は、ひん死の病床にありながら、ただ入信以来十年間の過ぎし種々のでき事を思い、ここまでようもようもおかげを頂かせていただいたことよと、御礼お詫び申し上げさせていだき「いま死んでも何の不足はない。しかし、天地金乃親神様にはこうして床の中からでも、御礼お詫びを申し上げることはできるが、ここ十年の間、種々さまざまなこと御取次を頂き、その都度助けていただいた親先生には、お目にかからせていただかねば御礼申し上げますこともお詫び申し上げますこともできない。よし、途中で死んでも良い、お教会にお参りして親先生にお目にかかり、心ゆくまで御礼お詫びを申し上げ、この世でのお別れを申し上げさせていいただこう」と、強く心に決するものがありました。

家族親類の者は口をそろえて止め

ましたが、母の決心は動かず、決死の参拝をさせていただいたのでした。その時は、両側から男が二人付き添い、肩を貸してお参りさせていただいたとのことで、後になって、その折のことを「まさに殿様のお通り」といった具合であったと、嫁フジは物語っていました。

ようやくお広前(自宅から約二軒)にたどりついた母は、御結界の前にはい寄りました。

ちょうど、修行中でありました川並為作師(熊本県玉名教会初代教会長)がお手代り奉仕になっていましたが、母の姿を見て、奥の間の恩師にその由を伝えられ、すぐに恩師が御結界にお座りになりました。

その時のことを恩師は「矢野さんのそのときの姿は、顔がぶくぶくにふくれあがり、前から見たら耳が見えなかった。あら耳がないと思っよく見ると、小さな耳がついている。ひざの上に置いたつもりの両手が、腹の両側にある。相撲取りというけれど相撲取りどころではない、まったくの化け物であった」と、物語っておられました。

恩師は内心「ようもこんな身体でお参りができたものだ」と泣きたい思いであった」とも仰せになっていました。

「しかし、ここで弱いことを言えば、せっかく張り詰めて参ってきた（母の）心が挫ける。また、どのくらいの決心でお参りしたのであろうかと、軽く石を投げてみた。池でも水面に石を投げると、波紋を描く。そこでわざと、『矢野さん、えらい肥えたなあ』と問いかけた」とも物語っておられました。

ところが、母は真剣そのもので、「先生、これは肥えたのではございません。腫れているでございます。先生、今回はとても助かりません。生きるも死ぬるも神様にお任せして安心でございますが、今まで何一つ喜んでいただくことができず、神様にお詫びばかりしております。神様は天地の親様で何もかもご承知ですが、先生にはお目にかからぬとお詫びができませんので、本日出て参りました。先生、これがお別れでございます」と言いました。

恩師は、泣きたいほどの感動を抑

えられつつ、この人には何を言っても取り違えることはない、思う存分のきついご理解をされました。

「矢野さん、あなたは生き別れに來たとは、えらい（たいそう）信心の帆を下げたな。金光様は死ぬる用意をするよりも生きる用意をせよと仰せになってある。今まで何を信心してきたか、一心一心と言っても、口で言うようにたやすいものではない。死んでもよいと言っても、本当に死んだら、後はどうなるであろうか。主人もまだ若い、後妻を迎えるであろう。そうしたら二人の子どもは、継母から育てられることになるが、どんな思いをするであろうかと思えば、心は千々に迷うであろう。死を覚悟しているあなたには、そんな不安はないはず、これからが本当の一心というもののじゃ。なぜ、その決心と覚悟をもってお願いせんのか。自分は今死んでも、生まれる力も、生きる力もない者が、三十三年間生かされ恵まれてあるのだから、三十三年間もうかったわけだが、三十三年間ご苦労くださったってある神様のご損は考えたことがあるか。病気が命取

りなら、信心も命懸けじゃ」と、それから本多平八郎忠勝の話をされました。

「昔、徳川の四天王の一人、鬼本多といわれた豪の者、本多平八郎忠勝が臨終の際に、近習の者を呼んで、矢立と紙を持って来させて、さらさらと辞世の句を詠んだ。それは、上の句を『死んともな ああ死んともな』と書いたので、側に侍っていた家族や重臣たちが、たいそう残念がったということである。それは、武士たる者が一番の恥とすることは、死を恐れるということで、佐賀の葉隠にも、『武士道とは死ぬことを見つけたら』と、記されている通りである。それに、世間から鬼本多とまでうたわれた主君が、死に直面してそのような未練がましい辞世を詠むとは何事か、こんな事であれば、早く禅宗の坊さんにでも頼んで、引導を渡してもらっておけばよかったと嘆いたそうだが、その下の句に、『御恩を受けし君を思へば』と詠んだ。それでみんながホッとしたそう。矢野さん、本多平八郎が受けた主君家康公のご恩と、天地金乃親神様のご

恩とはくらべものにならないが、あなたも死んでもよからうが、このご恩には、どうして報いるつもりかと、強くお諭しになりました。

じっと聞いていた母は、涙ながらに「私が間違っておりました。どうぞお願い申し上げます。」とひたすらお詫び申し上げますのでした。まさに劇的光景であったと想像されます。

恩師はご神前に進まれて、「ただ今氏が死の覚悟をもって一心に継っております。どうぞ願いをかなえてくださいよう。今日までのお礼とお詫びの足らざることを自覚して、心からのお礼お詫びを申し上げ、生命は神様におまかせして、一心にお継りいたしますれば、なにとぞ身体を調べてくだされ、悪血悪毒は大小便で下にお取り払いくだされまますよう・・・」と、御祈念をこらして下さいました。

かくて、この安武恩師に、今生の別れにお参りさせていただき、恩師からいとも厳しく、しかも条理を尽くされての、み教えを頂いて、母の信心は大きく展開させていただいたのであります。

それは、「振り返ってみると、今日までの信心は、ただ一身一家の上におかげ蒙らせていただきたいとの一心からのものでありました。いわば自己中心で、親神様の御立場というようなことはいささかも考えていなかった。これは申し訳ない相済まないうことであった。これからは、今日死んだと思って、少しでも親神様に喜んでいただくような自分になしていただく。神様に喜んでいただくということは、まず御取次くださる親先生に喜んでいただくことである」と、心に強く誓わせていただいたのです。

帰りも行きと同様、抱えられるようにして連れて帰られた母は、そのまま床に伏して一時は重態に陥り、いよいよ危篤状態となりました。

母から導かれた同信の人々も、見舞いに来られては「あなたがたにおかげを頂かれねば、初信の人々の信心に動揺をきたすから、どうでもこうでもおかげを頂いてください」と、枕辺で力づけるのであります。

ところが数日過ぎた頃から、母の容態が次第に快方に向かわせていた

だき、一枚一枚薄紙をはいでいくように、日に日に腫れが引いていき、かくて、七月二十六日恩師にお暇乞いに参拝させていただいた日から六十九日後の十月三日、病氣全快の御礼参拝をさせていただくことができました。

恩師は心から喜んでくださり、ご神前に厚く御礼申し上げてくださいましたが、再生のおかけを蒙らせていただいた母の心境は、いかばかりであったかと推察されるのであります。



矢野仁吉郎翁
(昭和9年 55才)



矢野クラ刀自
(昭和9年 53才)

安武恩師の厚き御取次、み祈りによつて、母は命の接穂をしていただいたのであります。

当然のことながら、母は病後なんとなく身体の不調を感じたので、そのことを恩師に御取次頂きますと、「もう一人氏子をお恵み頂いたら、身体の調子もよくなしていただくらうから、もう一人お恵み頂くようお願いさせていただくから」と仰せになってお願い申し上げてくださったが、その月に妊娠させていただき、翌年（大正五年）十月二十八日、次男政美が出生させていただいたとのことであります。

その折、母がおかけを蒙っていなかったら、私はこの世に生ましめられることができなかったと思う時、奇びなる神幸と、恩師の御取次、母の信心のほどが有り難く思えるのであります。

母の生前はもちろん、死後今日に至るまで、毎年七月二十六日には特別改まった気持ちで、御礼参拝を続けさせていただいています。

(つづく)

ご霊神様のお立日

十月

平地セイ之霊神	平成 14・10・01
矢野サダ子大乃自之霊神	平成 24・10・03
春山陽子之霊神	昭和 56・10・06
中村正行大人之霊神	平成 23・10・06
大木千鶴子之霊神	平成 16・10・07
上田喜四郎之霊神	平成 03・10・08
中野綾子之霊神	平成 04・10・08
瀬戸淳一之霊神	平成 23・10・10
沐木昇之霊神	令和 04・10・11
庄村徳二之霊神	平成 02・10・13
前田シツ之霊神	平成 26・10・13
有蘭敏雄之霊神	平成 27・10・14
瀬戸秀雄之霊神	昭和 50・10・14
荒木恒之霊神	令和 01・10・16
前田照子之霊神	大正 14・10・17
内村健之霊神	昭和 58・10・17
中野満行之霊神	平成 12・10・18
岡山健一之霊神	平成 29・10・21
春山住晴之霊神	昭和 47・10・19
矢野仁吉郎之霊神	昭和 30・10・26
福元フサ子之霊神	平成 15・10・29
市来政利之霊神	平成 30・10・30

「先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。」

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。

教会では、十日の月例祭時に、ご霊前で靈祭詞が奏上され、玉串の奉てんを準備しています。

感 詠（教会長）

猛暑にて過酷なこともありねれど
秋の実りの恵み豊かに

白萩の三年ぶりに花をつけ

陽差しや水の尊さを知る

彼岸すぎ気候変わるを身を持ちて
知る涼しさのありがたきかな



あしあと

加治木教会行事記録

9月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
- 4 (木) 5 (金) 教誨師研修会（原・久）
- 9 (火) 清掃御用 10時
- 10 (水) ●月例祭（生神金光）併せ 10時半
- 12 (金) (県)教誨師会議 15時（西・大）
- 14 (日) 連青年のひろば
- 19 (金) TSC 小倉教会主催 教誨師交流会
- 20 (土) 甘木親教会御用
- 22 (月) 清掃御用 10時
- 23 (祝) ●月例祭・秋季霊祭 10時半
- 27 (土) 28 (日) 御本部御大祭参拝
- 30 (火) 清掃御用 10時

十月二十日(月) 午前六時半出発

小倉教会布教140年

記念大祭 参拝

十月二十六日(日) 午前十一時

加治木教会 前日清掃御用

生神金光大神御大祭 奉仕

※祭典後、教話。

大口教会長

講師 安武 秀信 先生

十月十五日～十月二十四日

御大祭奉迎 信行期間

一祈念・研修 午前六時

午前十一時

十一月二十日(金) 午後一時半

月例祭に併せて

立教記念祭 並びに

新穀感謝祭 奉仕

※祭典後、教話。

教会行事

10月

1(水) 報徳月例祭 10時半

併せて 教祖御生誕祭

2(木) 3(金) 甘木親教会御用

4(土) 星原家地鎮祭 10時

9(木) 清掃御用 10時

10(金) ●月例祭(生神金光 併せて 豊祭) 10時半

18(土) 人吉教会御大祭 11時

〃 木村家・矢野家 結婚式

20(月) 小倉教会布教140年記念大祭参拝

21(火) 清掃御用 10時

22(水) ●月例祭(天地堂 乃神様) 共励会 13時半

25(土) 御大祭準備・清掃御用 10時

26(日) 加治木教会御大祭 11時

27(月) 教誨御用(教会長) 10時

31(金) 清掃御用 10時

11月

1(土) ●報徳月例祭 10時半

2(日) 少年少女会「野外調理」

8(土) 清掃御用 10時

9(日) 多良木教会御大祭 11時

〃 枕崎教会布教90年記念大祭

10(月) ●月例祭(生神金光 併せて 豊祭) 10時半

15(土) 大口教会 御大祭 12時

16(日) 鹿児島教会 御大祭 11時

19(水) 清掃御用 10時

20(木) ●月例祭(天地堂 乃神様) 共励会 13時半

併せて 立教記念祭・新穀感謝祭

22(土) 甘木親教会前日御用(教会長)

23(日) 甘木親教会 安武文雄大人30年祭参拝

27(木) 連合会執行部会(鹿児島 教会) 10時半

30(日) 清掃御用 10時

※11月下旬 鹿児島県教誨師研修会(西本 聖寺)

《御大祭・式年祭》(予定)

☆10月18日(土) 11時 人吉教会 生神金光大神御大祭

☆10月20日(月) 11時 小倉教会 布教140年記念大祭

☆10月26日(日) 11時 加治木教会 生神金光大神御大祭

☆11月9日(日) 12時 枕崎教会布教90年記念大祭

☆11月9日(日) 11時 多良木教会 生神金光大神御大祭

☆11月15日(土) 12時 大口教会 生神金光大神御大祭

☆11月16日(日) 11時 鹿児島教会 生神金光大神御大祭

☆11月23日(水) 甘木親教会 安武文雄大人30年祭

☆12月3日(水) 甘木親教会 生神金光大神御大祭